

シマサルナシ選抜優良系統「^{きなんつる こう}みえ紀南蔓1号」

利用対象：果樹栽培農家

「みえ紀南蔓1号」は、県内の自生地に生育している多くの系統の中から、大玉で食味の良い優良系統を選抜しました（平成 28 年 11 月 15 日品種登録出願：第 31581 号）。



写真1 「みえ紀南蔓1号」果実



写真2 露地栽培での着果状況

表1 「みえ紀南蔓1号」の果実品質（2015年度）

品種名	調査場所	1果実重 (g)	果径 (mm)		偏平率 (%)	糖度 (%)	酸度 (%)
			タテ	ヨコ			
みえ紀南蔓1号	紀宝町	30.4	40.9	33.1	124	18.0	1.50
みえ紀南蔓1号	研究室圃場	32.9	42.9	33.6	128	13.8	1.55
淡路	研究室圃場	11.6	28.9	24.3	119	10.1	1.55
府中	研究室圃場	15.8	33.5	27.1	124	7.7	0.90

注) 収穫日は2015年11月20日（紀宝町11月17日）、調査日は2015年12月10日（紀宝町12月3日）

特 徴

- 果実は表面に毛がほとんどなく、果肉の緑色が濃いのが特徴です。
- 果実の大きさは、縦約 40mm、横約 33mm で果実重は 30 g 程度とシマサルナシの中では大玉です。
- 追熟後の糖度は約 15%程度になり、全国の一般的なシマサルナシ（「淡路」、「府中」）の品種に比べて高糖度です。

栽 培

- 三重県南部がシマサルナシ自生地の北限と言われているため、温暖な地域が適しています。
- 果実は完熟前に収穫するため中山間地等の鳥獣害の多いところでも栽培が可能です。
- 雌雄異株であり生産には雄株の混植が必要です。人工受粉は必要なく自然受粉で十分結実します。
- 収穫は、11月中下旬ごろに糖度が8%以上に達してから行い、可食のためには追熟が必要です。
- 追熟は13~15℃で24~48時間エチレン処理をすれば10~14日で可食適期となり、11月下旬より供給が可能です。
- 収量は棚栽培で約1.6t/10a見込めます。

お問い合わせ先	三重県農業研究所 紀南果樹研究室 市ノ木山浩造、湊 英也 中央農業改良普及センター 西川 豊	電話 05979-2-0008 電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP : http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm	